

## 第1回宮津わかもの会議「30の宣言」

### 想う

- ①町中をフィールドワークをする機会を作る。
- ②1日市長/日社長を通じて町を知る機会を作る。
- ③宮津でとなりの“人間国宝”をして、魅力的な地域住民の可視化を行う。
- ④宮津人々MAPを作り、魅力的な地域住民の可視化を行う。
- ⑤公共施設の“使い方マニュアル”を作ることで、住民が地域に関わる機会を作る。
- ⑥“新宮津検定”を行うことで、地域のことを知ってもらう。
- ⑦アンケート調査を通じて、宮津を客観的に見る機会をつくる。
- ⑧若者が立ち寄るMAPを作ることで、若者が地域に触れる機会をつくる。
- ⑨宮津のAtoZを考える機会をつくることで、宮津の魅力を再認識する。
- ⑩思い出集め。突撃隊のオジイ、オバアを実施することで、昔の宮津の良さを若い世代に伝える。

### 語る

- ⑪ワーホリの交換留学生などと議論をする機会を作る。
- ⑫わかもの×「地域自治体」会議を行う。
- ⑬わかもの×「他の学校の生徒」会議を行う。
- ⑭わかもの×「市長・市役所」会議を行う。
- ⑮わかもの×「社長・企業」会議を行う。
- ⑯わかもの会議を定例化する。
- ⑰ネット上でわかもの会議を開催する。
- ⑱高校生同士をマッチングし議論を促進する。
- ⑲大学/高校の対話のための連携を強化する。
- ⑳わかものによるまちづくりのためのチーム（まちづくり若者自治連）を作る。

### 形にする

- ①海コミアートをして、楽しみながら地域課題を解決する。
- ②宮津のカレー焼きなどのレシビ作り、復活させる。
- ③高校生などによるダンス等の発表会を行う。
- ④蔵ネタリウム等の魅力的な場所を宮津に作る。
- ⑤空き家のリノベーションを行う。
- ⑥わかもの応援基金を作る。
- ⑦わかものを応援するための応援団を作る。
- ⑧わかものを応援するための講座を行う。
- ⑨写真スポット探しを行い、まちの魅力を可視化する。
- ⑩各種MAPを作ることで、魅力を可視化する。

## 「みやづAtoZ」

### 発行日

文 高原 望乃 原 美咲 三根 楓子 山元 翔吾

写真 上世屋獣肉店 八尋 慈教 宮津メディアセンター

宮津市役所 小林 勇斗 高原 望乃

徳本 英明 原 美咲 藤澤 保子 堀 未季

### デザイン

内藤 和  
発行 福知山公立大学 宮津わかもの会議  
AtoZプロジェクト

TEL: 0773-24-7151

Mail: miyazu.wakamono@gmail.com

Twitter: miyazu\_wakamon

Facebook: 宮津わかもの会議

## 最後に…

宮津わかもの会議は、  
これからも宮津市を見つめ、  
わかものが盛り上げていくまちを  
目指しています。これからも  
開催される宮津わかもの会議に  
ぜひ参加してみてください！  
あなたに会えるのを楽しみに  
待っています。



## 「宮津わかもの会議」とは…?

2018年度から、宮津市出身の福知山公立大学生を中心に  
実行委員会を結成し、活動を開始しました。

宮津市出身者をはじめ、宮津市に関心のある若者が

若者目線から宮津市の未来について語り合い、

その未来に向けての行動を宣言し、実現するための団体です。

第1回「宮津わかもの会議」では

「宮津愛を高めるために若者ができること」をテーマとした

「30の宣言」が誕生しました。その宣言を踏まえて、

現在は、みやづ AtoZ プロジェクト、上宮津プロジェクトの

2つのプロジェクトを進行中です。

## contents

A	<small>akachanhatsudohyoiri</small> 赤ちゃん初土俵入り	N	<small>nihonsandaitoronagashi</small> 日本三大灯籠流し
B	<small>bamboo</small> bamboo	O	<small>olive</small> オリーブ
C	<small>curry yakisoba</small> カレー焼きそば	P	<small>park&amp;cruise</small> パーク&クルーズ
D	<small>Delray Beach</small> デルレイビーチ	Q	<small>kyumikamikejutaku</small> 旧三上家住宅
E	<small>energy laboratory</small> エネルギー研究所	R	<small>ren</small> 蓮
F	<small>fuyuhanabi</small> 冬花火	S	<small>sport</small> スポーツ
G	<small>glamping</small> グランピング	T	<small>tantetsu</small> 丹鉄
H	<small>honmoroco</small> ホンモロコ	U	<small>umitohoshinomieruokakoen</small> 海と星の見える丘公園
I	<small>icho-namiki</small> イチヨウ並木	V	<small>view land</small> ビューランド
J	<small>jokamachi</small> 城下町	W	<small>winery</small> ワイナリー
K	<small>kitamaebune</small> 北前船	X	<small>amanohashidate × ○○</small> 天橋立 × ○○
L	<small>lando scape</small> ランドスケープ	Y	<small>yawarabi</small> 和火
M	<small>motoisekoinojinja</small> 元伊勢籠神社	Z	<small>zibie</small> ジビエ



A

山王宮日吉神社で毎年行われる神事です。化粧廻し付けた赤ちゃんが、見えない神様を相手に相撲を取ります。神様を土俵際まで押し出そうとしますが、押し戻されて赤ちゃんは負けてしまいます。しかし、神様と相撲を取り、神聖な土俵の砂をお尻に付けることで健康を授かるといわれています。毎年250人を超えるほどの赤ちゃんが参加するため、朝早くから並ぶ家庭も多いようです。

akachanhatsudohyoiri



B

竹は、宮津の「山」の資源です。バイオマス原料として活用されていて、チップや粉末、竹炭等、形を変えることでさらに使い道が広がります。「宮津・竹の学校」の取り組みは都市景観大賞において優秀賞を受賞しています。おさかなキッチン横につくられた、海外アーティストによる竹のアート作品が印象に残っている人も多いのではないのでしょうか。

bamboo



C

終戦後、宮津の地に移り住んだ台湾出身の中華料理人の王(ワン)さんによって生み出されたのが、カレー焼きそばの始まりでした。おいしさが忘れられないという声から復活したご当地B級グルメです。宮津カレー焼きそば食べ歩きマップも作られており、各店舗で味付けも様々です。今では宮津のソウルフードとなっています。宮津に来たときは、是非ご賞味ください。

curry yakisoba



D

森上助次氏が森上大和館や森上パーク等を見守り、デルレイビーチ市が姉妹友好都市として提携を望み、昭和52年(1977年)9月29日に決議しました。民間団体が主体の活動を支援し、国際感覚豊かな人づくりを進めるとともに、高校生訪問などを行い、互いの理解と友好関係を深めています。住む国々や言葉が違っても通じ合う心と心、海を越え、国境を越えて友情を育みます。

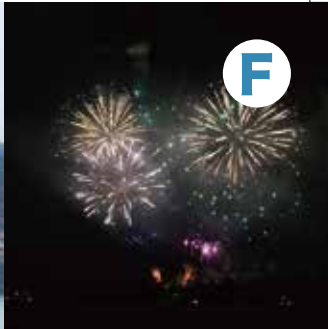
Delray Beach



E

昔、重油による火力発電と、波力等の力による発電の研究を行っており、「エネルギー研究所」という名前が付きました。現在は休止状態ですが、隣には水族館があり、そこで発電についての知識を知ることできます。また、撤廃するには資金がかかるため、土地の有効的な活用方法はないかと考えられています。これからの若者に何か出来ることはないでしょうか。

energy laboratory



F

成相寺開山1300年を記念して始まった冬花火は、毎年多くの来場者で賑わいを見せます。宮津では夏と冬の2回、花火大会が開催され、日本三景の天橋立を背景に美しい海の上で花火が打ち上げられます。夏とは雰囲気も変わり冬の訪れを告げる冷え込んだ晩秋の澄んだ夜空を約2000発の花火で彩ります。連続的に打ち上げられる花火が特徴的な京都府内でも人気のある花火大会です。

fuyuhanabi

### 赤ちゃん初土俵入り

### bamboo(竹)

### カレー焼きそば

### デルレイビーチ

### エネルギー研究所

### 冬花火





G



H



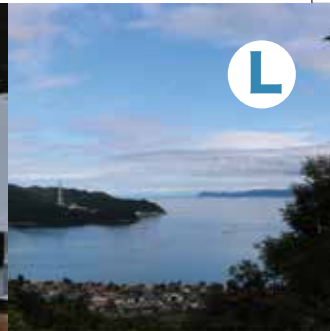
I



J



K



L

日置町には、天橋立が見えるグランピング施設があります。グランピングとは「グラマラス」と「キャンピング」を合わせた造語で非日常的で豪華な宿泊体験のことです。グランピングを通して大自然に囲まれながらキャンプや日帰りのアウトドア体験も出来ます。キャンプをしたことがない初心者の方でも楽しめるようになってきているので気軽に遊びに行けます。

### グランピング

glamping

魚類の中でも特に美味しいといわれているホンモロコは京都府では高級魚とされており、重要な水産資源となっています。海洋高校の生徒が廃校になった旧上宮津小学校のプールを有効活用し、養殖を行っています。出荷サイズになったものは京都市内の料亭などで高値で取引されています。この取り組みを含め、県外各地からの入学者が多い海洋高校の生徒も宮津市に貢献しています。

### ホンモロコ

honmoroco

須津には、SNSで「写真映える」と近年話題になっているイチョウ並木があります。青い空と黄色く色づいたイチョウの葉の組み合わせは、ベストマッチです。散っていく頃になると、地面には一面黄色の絨毯が出来上がり、さらに美しい空間へと変わっていきます。ここに来れば、気分もリフレッシュできて、お気に入りのベストショットが撮れること間違いなしです。

### イチョウ並木

icho-namiki

1580年に細川藤孝、忠興父子は織田信長から丹後一国を与えられ、忠興の居城として宮津城を、藤孝の隠居所として田辺城を平行して築き、1583年には完成したといわれています。町人町は本町、魚屋町、万町、職人町、白柏町、川向町の6町を中心に構成されました。城下町の雰囲気が残っているの宮津駅周辺を歩いてみてはいかがでしょう。

### 城下町

jokamachi

北前船とは、江戸中期から明治時代にかけて日本海側地域と大阪・瀬戸内地域を結び北海道でとれたニシンを加工した魚肥や各地の米、瀬戸内の塩などの産物を載せて行き来した商船のことです。宮津にも北前船が来ており、生糸、ちりめんを運出していました。また、宮津市由良地区には北前船資料館があります。地元で造船された北前船の木製模型などを見ることができ、北前船の往来により発達した、町の様子を見ることができます。

### 北前船

kitamaebune

宮津市では、天橋立をはじめとする美しい風景をあちこちで眺めることができます。四季折々いつ見ても美しく、風景の変化の様子を見ていくことも楽しみの一つとなっています。海や山、田んぼや畑など、豊かな自然に恵まれた地だからこそ今の世代にもずっと伝え続けていきたいですね。あなたのお気に入りの風景はどこですか？

### ランドスケープ

lando scape



M

主祭神が籠の船で竜宮に行かれたとの伝承があり、籠神社と記された、現在の元伊勢籠神社にはとても古い歴史があります。この神社の奥宮である真名井神社には「天の真名井の水」と言われるとてもおいしい水が湧き出ており、多くの方が汲みに来られます。牟弥呼やかぐや姫などの謎の多い人物も関わりがあるようです。あらゆる採点や行事が行われ、今でも歴史を刻む神社となっています。

### 元伊勢籠神社

motoisekonoijinja



N

江戸時代から続く伝統行事で、1924年に今の形になりました。精霊船と約1万個の紅白の追っ掛け燈籠が海面を漂い、約3000発の打ち上げ花火を見ることができます。また、宮津周辺の歴史と大きな関りがあるイベントでもあり、城下町に住んでいる人々が盆を迎えた先祖の霊を、再び極楽浄土へ送るため、供物に灯を添えて海へ流したのが燈籠流しの始まりと言われています。海と空が一体となる日の祭典を堪能してみてください。

### 日本三代灯籠流し

nihonsandaitoronagashi



O

2013年に建ち上げられた「由良オリーブを育てる会」により耕作放棄地の解消からオリーブの栽培が開始されました。手植え250本のスタートから2019年7月までの6年間で約2000本にまで増え、大切に育てられています。由良地区の特産品となり、オイルやお茶などの商品化もされています。秋にはオリーブ祭が開催され、多くの人で賑わっています。

### オリーブ

olive



P

道の駅の駐車場に車を止める「パーク」と観光船が宮津の棧橋から天橋立の棧橋へと結ぶ「クルーズ」を合わせた「パーク&クルーズ」の取り組みが行われています。観光船ではカモメに餌をあげることもできます。餌をもらおうとギリギリまで近寄ってくる大迫力のカモメも楽しみの一つです。宮津の美しい景色を眺めながら海を渡る時間は、あっという間に感じます。

### パーク&クルーズ

park&cruise



Q

江戸時代に糸問屋や酒造業、廻船業などを営んでいた商家「三上家」の住宅で、国の重要文化財に指定されています。成人式の日には、格式高い座敷で、美しい庭園をバックに新成人の写真撮影を行うことができます。庭園には、亀が30匹以上いるのだとか。建物は、火事に備えてしっかりとした耐火構造となっており、高校生が建築物などの構造を学ぶ場にもなっています。

### 旧三上家住宅

kyumikamikejutaku



R

日ヶ谷にある「花蓮の里公園」では、夏になるとおよそ2000㎡の水田に800株を超える蓮の花が見ごろを迎えます。観蓮会が開催され、見どころの一つに蓮酒の飲酒があります。蓮の葉でお酒を呑むという貴重な体験ができます。日が昇り白やピンクの花蓮の大輪の花が咲いている様子は、期間限定の美しさです。

### 蓮

ren



宮津高校から、野球選手では阪神タイガースの糸井嘉男選手や、南海ホークスの中島博征選手、陸上長距離選手では西原架純選手など数多くのスポーツ選手を輩出しています。また、現在は陸上スポーツだけでなく、海上スポーツのボートやヨット等にも力を入れており、高校生で全国大会に何度も出場するなど、卒業後の活躍も期待されています。

sport



京都丹後鉄道は2015年に事業を開始しました。宮津市をはじめとし、福知山、舞鶴地区で運行しています。「丹鉄」の愛称で親しまれ、通学する学生や通勤する社会人の他にも観光客や丹後鉄道を目的に利用される方がいるなど人気のある列車です。中でも、「丹後あおまつ号・あかまつ号・くろまつ号」は座席のタイプが様々で車内サービスも充実しています。また、列車の中で結婚式やパーティーができ、海を見ながら素敵な思い出を作ることができます。

tantetsu



「うみほし」という愛称で親しまれている場所です。地球環境と共生するライフスタイルについて、子供から大人まで誰でも気軽に楽しく体験しながら学ぶことができます。子供の頃、ツリーハウスをつくったり宿泊や体験をしたりと、思い出がある人もいるのではないでしょうか。豊かな自然とふれあい、楽しく学ぶことは、地域を好きになるきっかけにもなりますね。

umitohoshinomieruokakoen

## 海と星の見える丘公園



リフトからゴンドラで山に登ることができ、ビューランドから見える景色は飛龍観と呼ばれています。股視きをすると天橋立の形がまるで龍が天に昇っているような形に見える股視きの台もあります。また、飛龍観回廊もおすすめの一つです。股視きの台よりも高い場所から天橋立を眺めることができ、とても気持ちのいい風景が広がっています。

view land



日本三大風景の一つ天橋立を目の前にワイン用の葡萄栽培、醸造を行っています。仕込みから貯蔵を一貫して行っており、瓶詰室や地下セラーの見学することもできます。また、天橋立を一望しながら、地元食品を使った料理を食べられるレストランもあります。海洋高校の生徒とも協力し、レストラン経営をしています。

winery



宮津市には、日本三景の一つである「天橋立」があります。しかし、他にも魅力ある地域資源はたくさんあります。その地域資源を天橋立とかけ合わせてみましょう。今までになかった素敵なものが生まれるのではないのでしょうか。みなさんは、何をかけ合わせますか？思いついたアイデアは、外に発信することが大切です。さあ、周りの人と共有してみましょう！

amanohashidate×○○

## 天橋立×○○





Y

毎年10月に寺町界隈のお寺や通りで1万もの手作りペットボトル燈籠のライトアップをするイベント「城下町宮津七万石和火」が行われます。子供から大人まで大勢の参加で作り上げられる和火は手作り感で溢れており、イベントステージや出し物も優しい雰囲気になっています。バンド演奏やダンスや演奏によってエリア全体が盛り上がりを見せます。

yawarabi



Z

上世屋で有名なジビエは、今までは美味しい肉を山から頂くというだけの意味でした。しかし現在では、かなり繁殖しており、民家の畑を荒らしたり、山の下草を食い尽くされたりと厄介者に思われてきています。そのため山を守るという意味でも狩猟がされています。また、解体処理する獣肉店や地元のレストランで提供している店舗も増えてきています。

ジビエ

zibie



★

宮津市には日本三景の天橋立があり、毎年多くの観光客が訪れます。美しい海や山、食べもの。そして多くの人々が口をそろえて「宮津の人はとっても優しい」というように、人もまちの魅力となっています。人口減少は進んでいますが、宮津市には未開拓な可能性がたくさん詰まっているような気がします。

宮津市

miyazushi

## 第1回「宮津わかもの会議」 2018年12月26日

活性化の取り組み～

講師：Mおいしいグルメ講演会～地域メ開発研究所 所長 料理研究家 小松美香氏  
 特定非営利活動法人チーム且波 理事 濱田裕太氏  
 上宮津地域会議 代表 八尋慈教氏

「宮津の未来」を考えるワークショップ～宮津愛を高めるためにわかものができること～

4グループ21名の様々な世代の方により基本スキーム「想う・語る・形にする」の30の文言が作成されました。既に取り組まれている取り組みや新たに考え出されたアイデアが出ました。アンケート結果からは、初めて知ることが多かった、若者のニーズを感じた、今回出た33の宣言を実行していきたいとの感想があり、参加された方々の宮津愛が高まるグループワークになったことが分かりました。



## 第2回「宮津わかもの会議」 2019年8月10日

## 〈午前の部〉①首長対談 市長・町長と考える宮津の未来

対談者：宮津市長 城崎雅文氏  
与謝野町長 山添藤真氏

## ②若者鼎談 わかもの考える宮津の未来

鼎談者：公立鳥取環境大学院修士2年生 岩田直樹氏  
福知山公立大学地域経営学部3回生 山元翔吾氏  
同1回生 杉本優人氏（実行委員）



## 〈午後の部〉30の宣言の実現に向けての議論

6グループ27名の方々により、前回の30の宣言の中からいくつかをピックアップし、それぞれ実現に向けた話し合いがなされました。その後、話し合いをもとに実現に向けた取り組みを行うグループがあり、宮津を盛り上げていく意識が目に見える形に現れてきました。



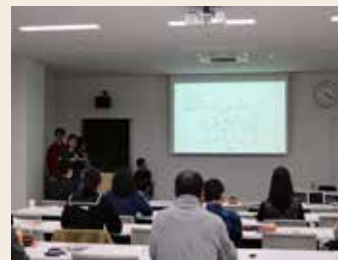
## 第2回「宮津わかもの会議」活動報告会 2020年2月22日

## 活動報告

- (1) みやづAtoZプロジェクト
- (2) 宮津与謝野交流プロジェクト
- (3) 上宮津プロジェクト

## 話題提供

京都大学地域振興研究会 森下航平氏



プロジェクトの進捗報告を行い、現状や今後の活動について聴講者の方々から貴重な意見や感想を直接頂くことができました。

当日は前宮津市長の井上市長と現宮津市長の城崎市長が足を運んでくださり、市長からのご意見もいただくことができました。また、京都大学地域振興研究会の方々による話題提供の発表もとても刺激になるものでした。